

I. 調 査 結 果

1. 人口

C0101-1 人口総数及び増加数

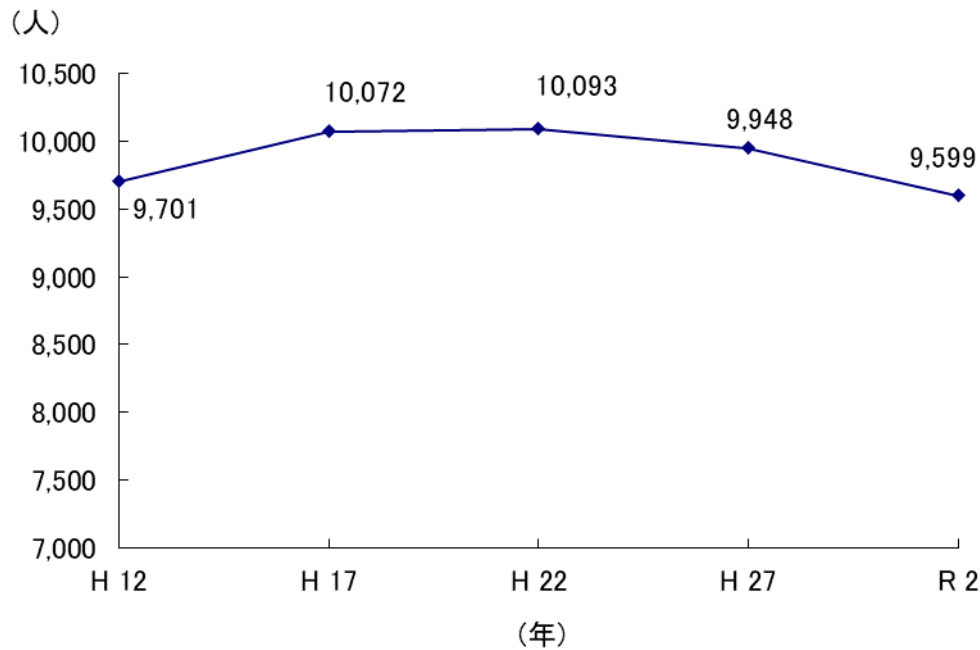
令和 2 年の松川村の人口は 9,599 人で、いずれも都市計画区域内に居住している。人口は国勢調査開始以降、順調に増加していたが、平成 27 年から減少となり、令和 2 年の調査でも減少傾向となっている。

図表 1-1 人口総数及び増加数

(平成 12, 17, 22, 27, 令和 2 年国勢調査 男女, 年齢(5 歳階級), 国籍総数※日本人別人口)

年次	行 政 区 域			都 市 計 画 区 域		
	人口(人)	5 年間の増減		人口(人)	5 年間の増減	
		人口(人)	率(%)		人口(人)	率(%)
H 12	9,701	—	—	9,701	—	—
H 17	10,072	371	3.8	10,072	371	3.8
H 22	10,093	21	0.2	10,093	21	0.2
H 27	9,948	▲145	▲1.4	9,948	▲145	▲1.4
R 2	9,599	▲349	▲3.5	9,599	▲349	▲3.5

図表 1-2 人口の推移



C0101-2 年齢・性別人口

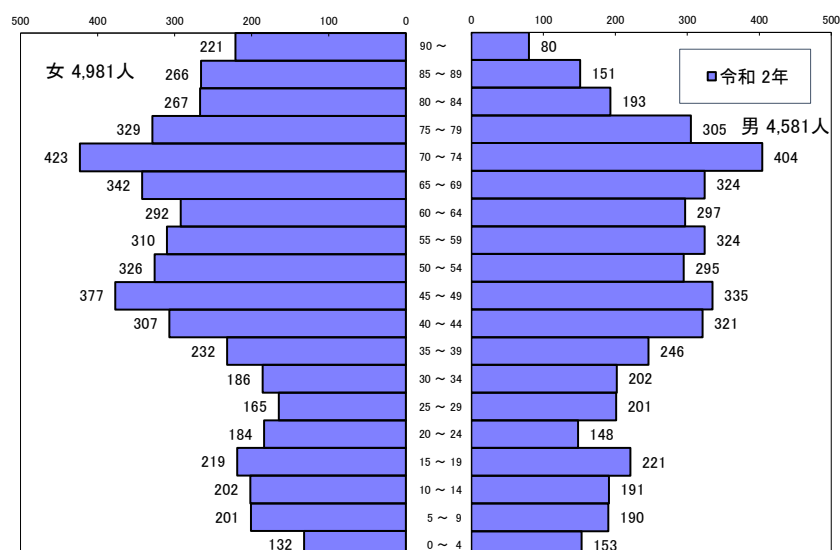
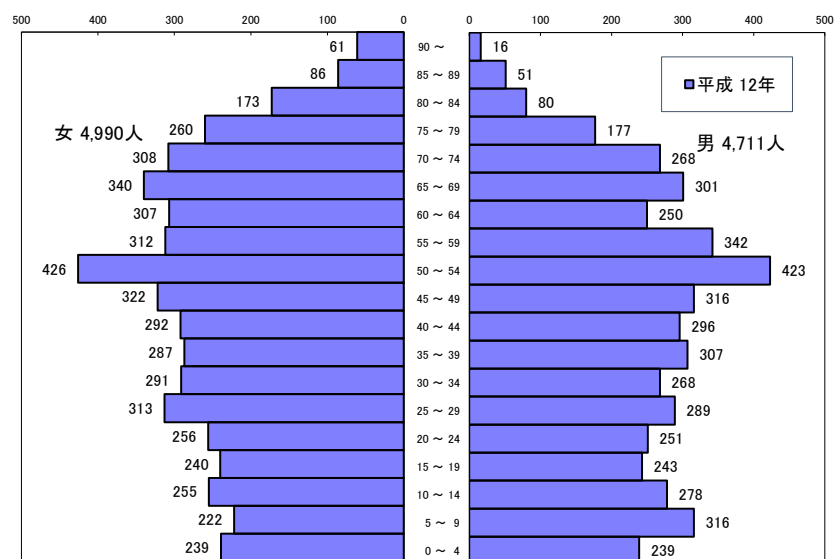
令和2年の総人口は9,599人で、平成27年までの増加傾向から5年間で349人（3.5％）の減少に転じている。年齢構成別に平成12年と比較してみると、年少人口（0～14歳）の比率は16.0％から11.1％に減少し、出生率の低下による少子化の進展が顕著である。65歳以上の人口比率は21.9％から34.4％に増加、特に70歳以上の高齢者の比率は15.3％から27.5％へと増加率が高く、少子高齢化が顕著である。年少人口及び生産年齢人口（15～64歳）の減少により将来の労働力不足が懸念される。

図表 1－3 年齢・性別人口

(平成12, 17, 22, 27, 令和2年国勢調査 男女, 年齢(5歳階級), 国籍総数か日本人別人口)

年令 階 層	平成12年			平成17年			平成22年			平成27年			令和2年			備 考
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	
0 ～ 4	478	239	239	462	233	229	369	175	194	349	162	187	285	153	132	年 少 人 口
5 ～ 9	538	316	222	537	269	268	493	244	249	398	201	197	391	190	201	
10 ～ 14	533	278	255	542	311	231	535	265	270	490	243	247	393	191	202	
15 ～ 19	483	243	240	466	241	225	488	269	219	480	247	233	440	221	219	生 産 年 齢 人 口
20 ～ 24	507	251	256	373	187	186	340	180	160	393	213	180	332	148	184	
25 ～ 29	602	289	313	580	292	288	450	222	228	359	192	167	366	201	165	
30 ～ 34	559	268	291	681	333	348	612	304	308	444	234	210	388	202	186	
35 ～ 39	594	307	287	597	281	316	681	330	351	611	306	305	478	246	232	
40 ～ 44	588	296	292	628	321	307	625	297	328	693	334	359	628	321	307	
45 ～ 49	638	316	322	597	312	285	638	329	309	632	296	336	712	335	377	
50 ～ 54	849	423	426	656	320	336	595	307	288	631	320	311	621	295	326	
55 ～ 59	654	342	312	863	418	445	683	333	350	583	294	289	634	324	310	
60 ～ 64	557	250	307	667	342	325	870	420	450	685	333	352	589	297	292	
65 ～ 69	641	301	340	578	265	313	672	342	330	865	426	439	666	324	342	老 年 人 口
70 ～ 74	576	268	308	623	272	351	559	252	307	661	331	330	827	404	423	
75 ～ 79	437	177	260	536	238	298	576	239	337	538	233	305	634	305	329	
80 ～ 84	253	80	173	362	129	233	457	185	272	512	204	308	460	193	267	
85 ～ 89	137	51	86	214	64	150	299	101	198	364	136	228	417	151	266	
90 ～	77	16	61	110	31	79	151	34	117	255	53	202	301	80	221	
年齢不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	4	1	37	24	13	
再掲 75歳以上	904	324	580	1,222	462	760	1,483	559	924	1,669	626	1,043	1,812	729	1,083	
総 計	9,701	4,711	4,990	10,072	4,859	5,213	10,093	4,828	5,265	9,948	4,762	5,186	9,599	4,605	4,994	

図表 1-4 年代別人口構成比



※令和 2 年の年齢不詳を除く

図表 1-5 年齢別人口推移

(平成 12, 17, 22, 27, 令和 2 年国勢調査 男女, 年齢(5 歳階級), 国籍総数が日本人別人口)

区 分	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
年少人口 (0~14 歳)	1,549	16.0	1,541	15.3	1,397	13.8	1,237	12.4	1,069	11.2
生産年齢人口 (15~64 歳)	6,031	62.2	6,108	60.6	5,982	59.3	5,511	55.4	5,188	54.3
老年人口 (65 歳~)	2,121	21.9	2,423	24.1	2,714	26.9	3,195	32.1	3,305	34.6
総 計	9,701	100.0	10,072	100.0	10,093	100.0	9,943	100.0	9,562	100.0
人口の増減	-	-	371	3.8	21	0.2	150	1.5	381	3.8

※平成 27 年及び令和 2 年の年齢不詳を除く

C0103 将来人口

将来人口の推計では、総人口で令和 2 年の 9,562 人から徐々に減少し、令和 32 年までの 30 年間で 7,232 人（-24.4%）にまで減少すると予想される。年齢構成をみると、老年人口（65 歳以上）の比率は、令和 2 年の 34.6%から 45.6%に増加し、年少人口（0～14 歳）は令和 2 年から令和 32 年の 30 年間の推計では 11.2%から 8.5%に減少する。生産年齢人口（15～64 歳）も年少人口と同様に減少傾向にあり、労働力不足が懸念される。

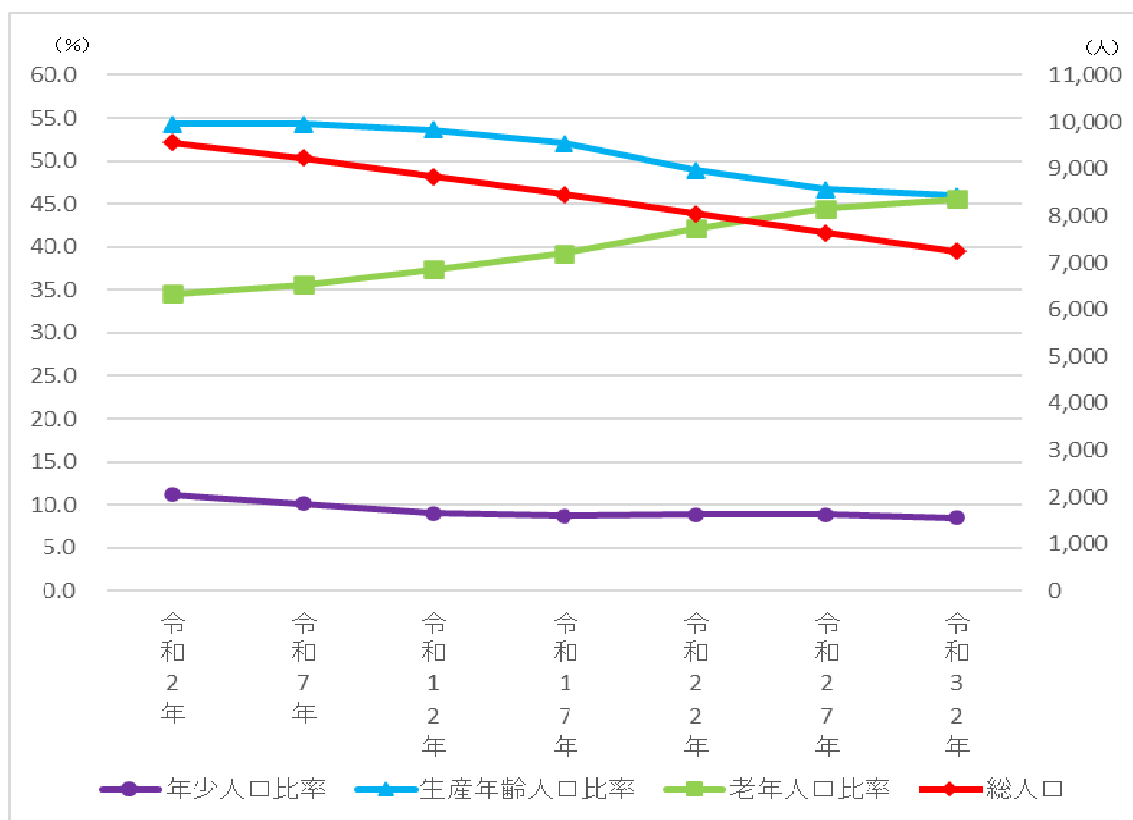
図表 1－6 将来人口

（令和 2 年国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所、令和 6 年推計））

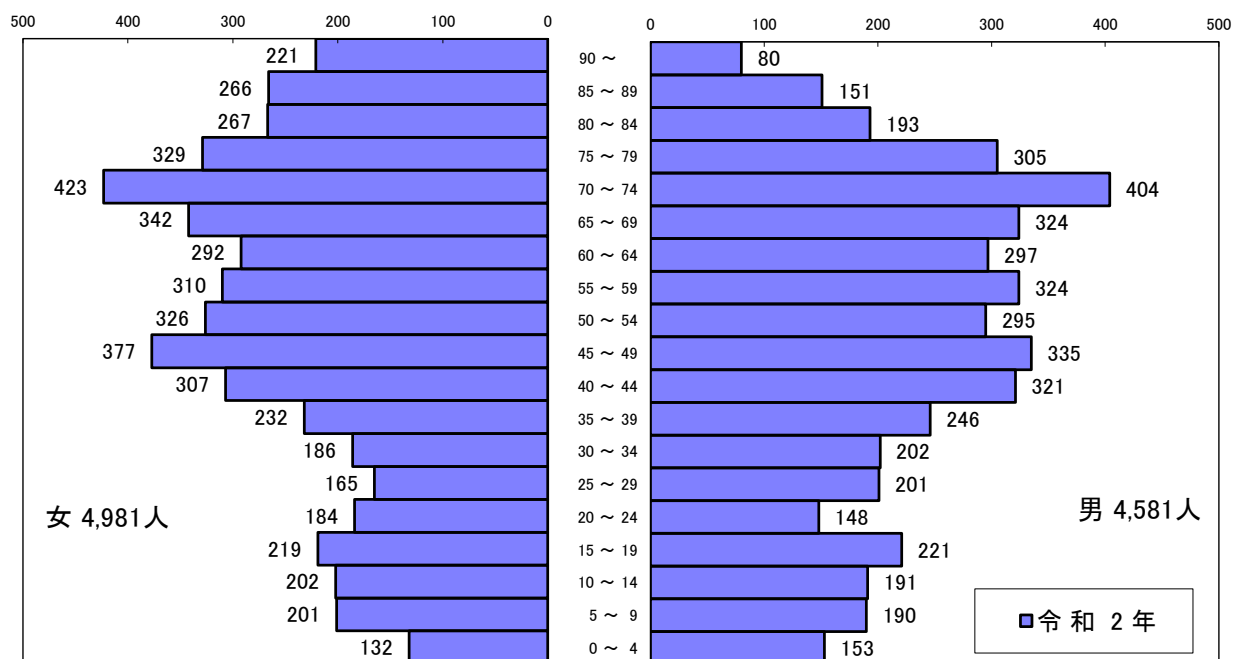
		令和 2 年			令和 7 年			令和 12 年			令和 17 年			令和 22 年			令和 27 年			令和 32 年		
		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数		9,562	4,581	4,981	9,225	4,427	4,798	8,830	4,246	4,584	8,446	4,064	4,382	8,048	3,856	4,192	7,634	3,648	3,986	7,232	3,445	3,787
年齢階級別	0 ～ 4	285	153	132	232	119	113	226	116	110	225	115	110	211	108	103	189	97	92	164	84	80
	5 ～ 9	391	190	201	312	171	141	257	136	121	252	133	119	250	132	118	235	124	111	212	112	100
	10 ～ 14	393	191	202	390	187	203	312	169	143	258	134	124	252	131	121	252	131	121	237	123	114
	15 ～ 19	440	221	219	353	172	181	349	168	181	280	152	128	231	120	111	226	118	108	226	118	108
	20 ～ 24	332	148	184	338	163	175	269	126	143	266	123	143	212	111	101	176	88	88	172	86	86
	25 ～ 29	366	201	165	364	163	201	359	172	187	285	133	152	282	130	152	226	118	108	188	94	94
	30 ～ 34	388	202	186	409	221	188	394	181	213	392	191	201	322	148	174	316	145	171	256	131	125
	35 ～ 39	478	246	232	413	210	203	429	226	203	416	190	226	413	200	213	345	155	190	337	151	186
	40 ～ 44	628	321	307	495	257	238	423	216	207	442	234	208	430	197	233	427	207	220	357	161	196
	45 ～ 49	712	335	377	645	327	318	507	261	246	434	220	214	454	238	216	444	202	242	441	212	229
	50 ～ 54	621	295	326	714	336	378	640	324	316	504	260	244	433	220	213	452	237	215	444	202	242
	55 ～ 59	634	324	310	634	302	332	720	338	382	647	327	320	509	262	247	437	221	216	459	240	219
	60 ～ 64	589	297	292	642	327	315	643	305	338	730	342	388	655	330	325	516	264	252	444	224	220
	65 ～ 69	666	324	342	581	292	289	639	325	314	644	306	338	731	343	388	656	331	325	518	266	252
	70 ～ 74	827	404	423	639	308	331	561	279	282	620	313	307	627	296	331	711	331	380	639	320	319
	75 ～ 79	634	305	329	793	375	418	614	283	331	540	258	282	599	291	308	611	277	334	693	310	383
	80 ～ 84	460	193	267	559	259	300	705	320	385	548	243	305	486	223	263	543	254	289	561	246	315
	85 ～ 89	417	151	266	357	137	220	444	196	248	577	251	326	445	188	257	402	177	225	457	206	251
	90 ～	301	80	221	355	101	254	339	105	234	386	139	247	506	188	318	470	171	299	427	159	268

※令和2年の数値は年齢不詳を除いた実績値。

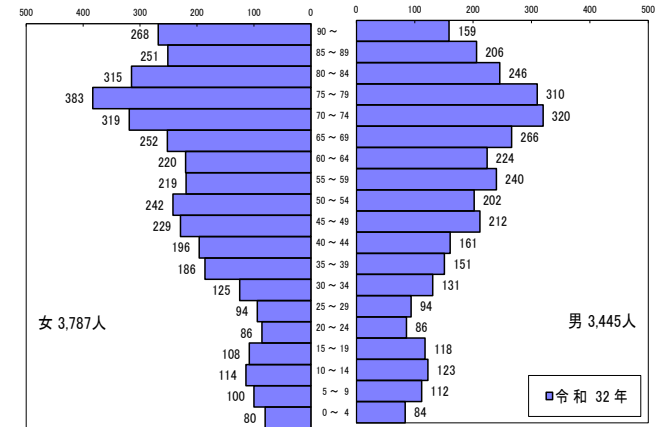
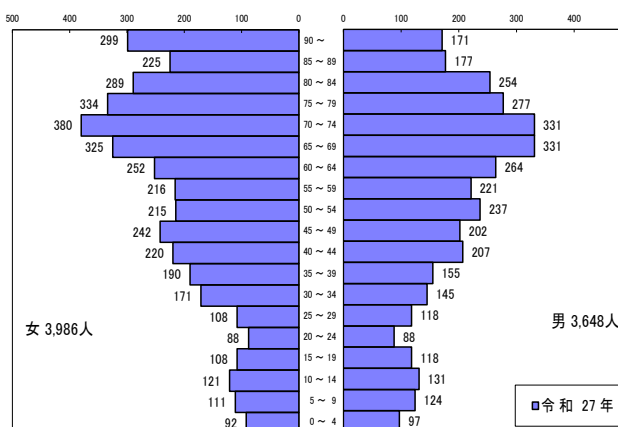
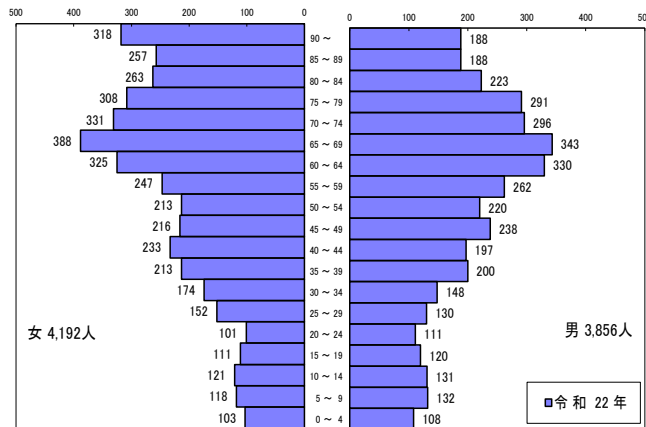
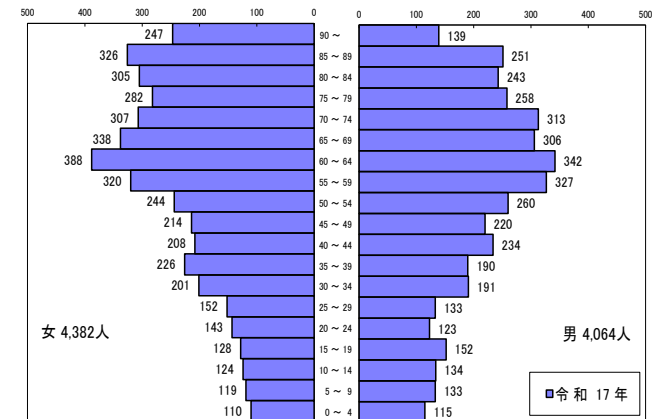
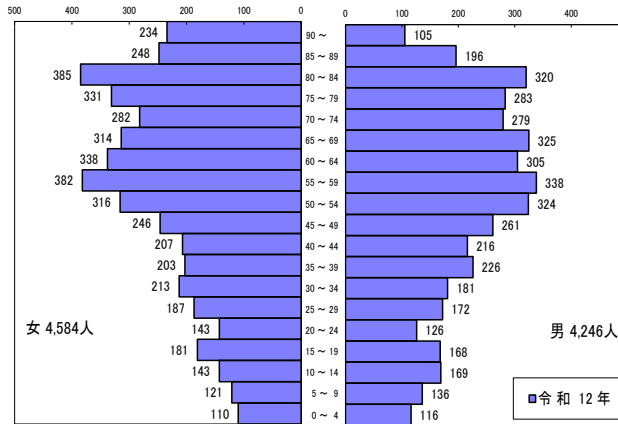
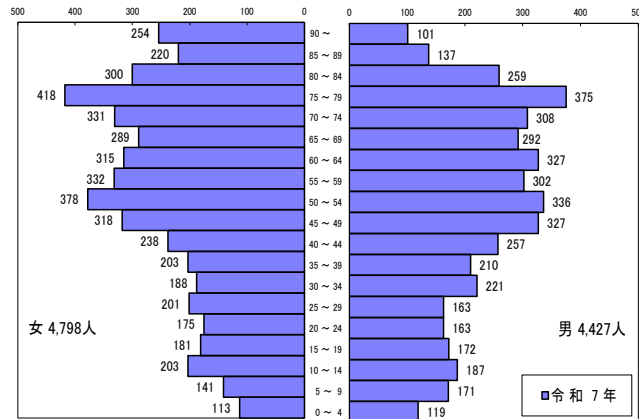
図表 1-7 将来人口の推移



図表 1-8 年代別人口構成比表（実績値：令和 2 年）



図表 1－9 将来人口年代別人口構成比表



C0104 人口増減

人口増減の内訳をみると、自然動態については、平成 17 年以降は減少傾向が続いている。一方、社会動態では平成 12 年から平成 14 年の間は、転入者が転出者を大きく上回っていたが、平成 15 年以降は増加数が減少し、平成 28 年から平成 30 年までは転出者が転入者を上回っていたが、令和元年以降は再び社会増の傾向にある。

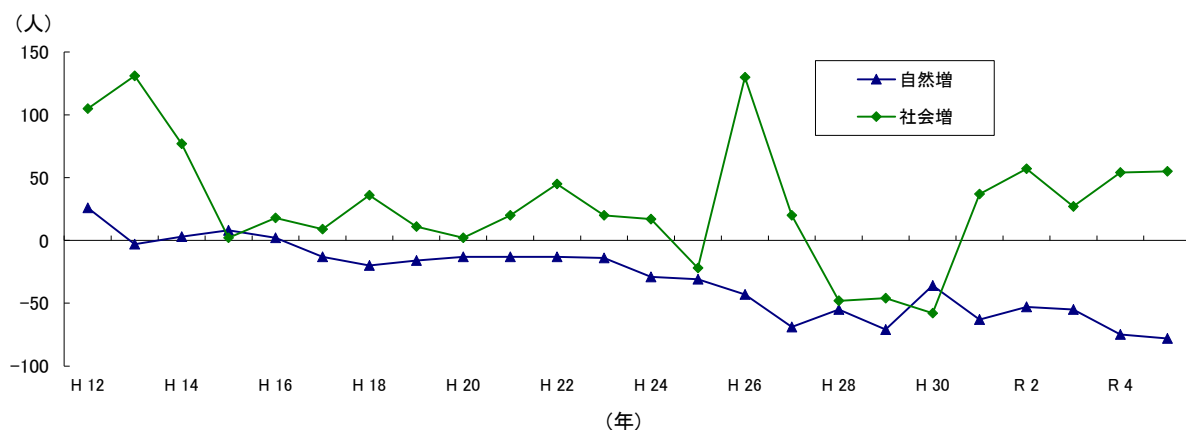
そのような中、平成 13 年まで続いていた年間 100 人以上の人口増加は、平成 14 年以降変化し、増減を繰り返していたが、平成 24 年以降は減少傾向となっている。

図表 1-10 人口増減の内訳

(松川村調査(令和 6 年 3 月 31 日現在))

項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減		項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減
	出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増				出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増	
H 12	104	78	26	562	457	105	131		H 24	71	100	▲29	304	287	17	▲12
H 13	83	86	▲3	554	423	131	128		H 25	72	103	▲31	282	304	▲22	▲53
H 14	95	92	3	515	438	77	80		H 26	58	101	▲43	417	287	130	87
H 15	91	83	8	468	466	2	10		H 27	49	118	▲69	308	288	20	▲49
H 16	90	88	2	424	406	18	20		H 28	60	115	▲55	313	361	▲48	▲103
H 17	68	81	▲13	374	365	9	▲4		H 29	54	125	▲71	289	335	▲46	▲117
H 18	79	99	▲20	442	406	36	16		H 30	66	102	▲36	295	353	▲58	▲94
H 19	73	89	▲16	388	377	11	▲5		H31/R1	40	103	▲63	324	287	37	▲26
H 20	85	98	▲13	345	343	2	▲11		R 2	53	106	▲53	351	294	57	4
H 21	66	79	▲13	317	297	20	7		R 3	56	111	▲55	350	323	27	▲28
H 22	67	80	▲13	348	303	45	32		R 4	40	115	▲75	397	343	54	▲21
H 23	79	93	▲14	318	298	20	6		R 5	52	130	▲78	324	269	55	▲23

図表 1-11 人口増減の内訳



C0105 通勤・通学移動

就業者の流出入別人口では、常住地による就業者は平成 17 年から 3.8%減少し 5,095 人、従業地による就業者は 3,114 人で 7.8%減少している。

流出就業者数は、平成 27 年を除き増加傾向にある。流入就業者数は、平成 22 年までは横ばい傾向にあったが、平成 27 年に 198 人（17.9%）増加し、令和 2 年には 82 人（6.3%）減少している。

流出先としては安曇野市が最も多く 1,076 人（21.1%）、次いで大町市の 925 人（18.2%）、松本市の 559 人（11.0%）の順である。流入先も安曇野市が最も多く 494 人（15.9%）、次いで大町市の 335 人（10.8%）、池田町 236 人（7.6%）の順になっている。

通学者の流出入別人口では、常住地による通学者は 436 人、従業地による通学者は 68 人となっている。

流出先としては松本市が最も多く 146 人（33.5%）次いで大町市の 86 人（19.7%）安曇野市の 71 人（16.3%）の順になっている。流入先は安曇野市が 2 人（2.9%）、次いで大町市が 1 人（1.5%）である。

図表 1－12 流出・流入別人口（就業者）

（平成 12, 17, 22, 27, 令和 2 年国勢調査 常住地・従業地における就業者・通学者数）

	常住地による 就 業 者 数	流 出		従業地による 就 業 者 数	流 入		従 / 常 就 業 者 比 率
		就 業 者 数	流 出 率		就 業 者 数	流 入 率	
平 成 12 年	人 5,272	人 2,969	% 56.3	人 3,400	人 1,097	% 32.3	% 64.5
平 成 17 年	5,299	3,076	58.0	3,376	1,153	34.2	63.7
平 成 22 年	5,074	3,212	63.3	2,986	1,108	37.1	58.8
平 成 27 年	5,186	3,170	61.1	3,325	1,306	39.3	64.1
令 和 2 年	5,095	3,214	63.1	3,114	1,224	39.3	61.1

	流 出 先														
	流 出 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
平成 12 年	大町市	人 742	% 14.1	松本市	人 562	% 10.7	穂高町	人 543	% 10.3	池田町	人 402	% 7.6	豊科町	人 310	% 5.9
平成 17 年	安曇野市	1,067	20.1	大町市	771	14.5	松本市	593	11.2	池田町	380	7.2	塩尻市	62	1.2
平成 22 年	安曇野市	1,072	21.1	大町市	894	17.6	松本市	624	12.3	池田町	394	7.8	塩尻市	68	1.3
平成 27 年	安曇野市	1,042	20.1	大町市	905	17.5	松本市	601	11.6	池田町	385	7.4	塩尻市	52	1.0
令和 2 年	安曇野市	1,076	21.1	大町市	925	18.2	松本市	559	11.0	池田町	419	8.2	塩尻市	44	0.9

	流 入 先														
	流 入 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
平成 12 年	大町市	人 317	% 9.3	池田町	人 252	% 7.4	穂高町	人 209	% 6.1	松本市	人 66	% 1.9	豊科町	人 57	% 1.7
平成 17 年	大町市	381	11.3	安曇野市	357	10.6	池田町	236	7.0	松本市	96	2.8	白馬村	27	0.8
平成 22 年	安曇野市	377	12.6	大町市	359	12.0	池田町	217	7.3	松本市	100	3.3	白馬村	17	0.6
平成 27 年	安曇野市	472	14.2	大町市	405	12.2	池田町	249	7.5	松本市	90	2.7	白馬村	17	0.5
令和 2 年	安曇野市	494	15.9	大町市	335	10.8	池田町	236	7.6	松本市	95	3.1	白馬村	11	0.4

注1. 常住地による就業者数とは、当該都市に常住する（夜間人口ベース）就業者数を言う。

従業地による就業者数とは、当該都市に従業する（昼間人口ベース）就業者数を言う。

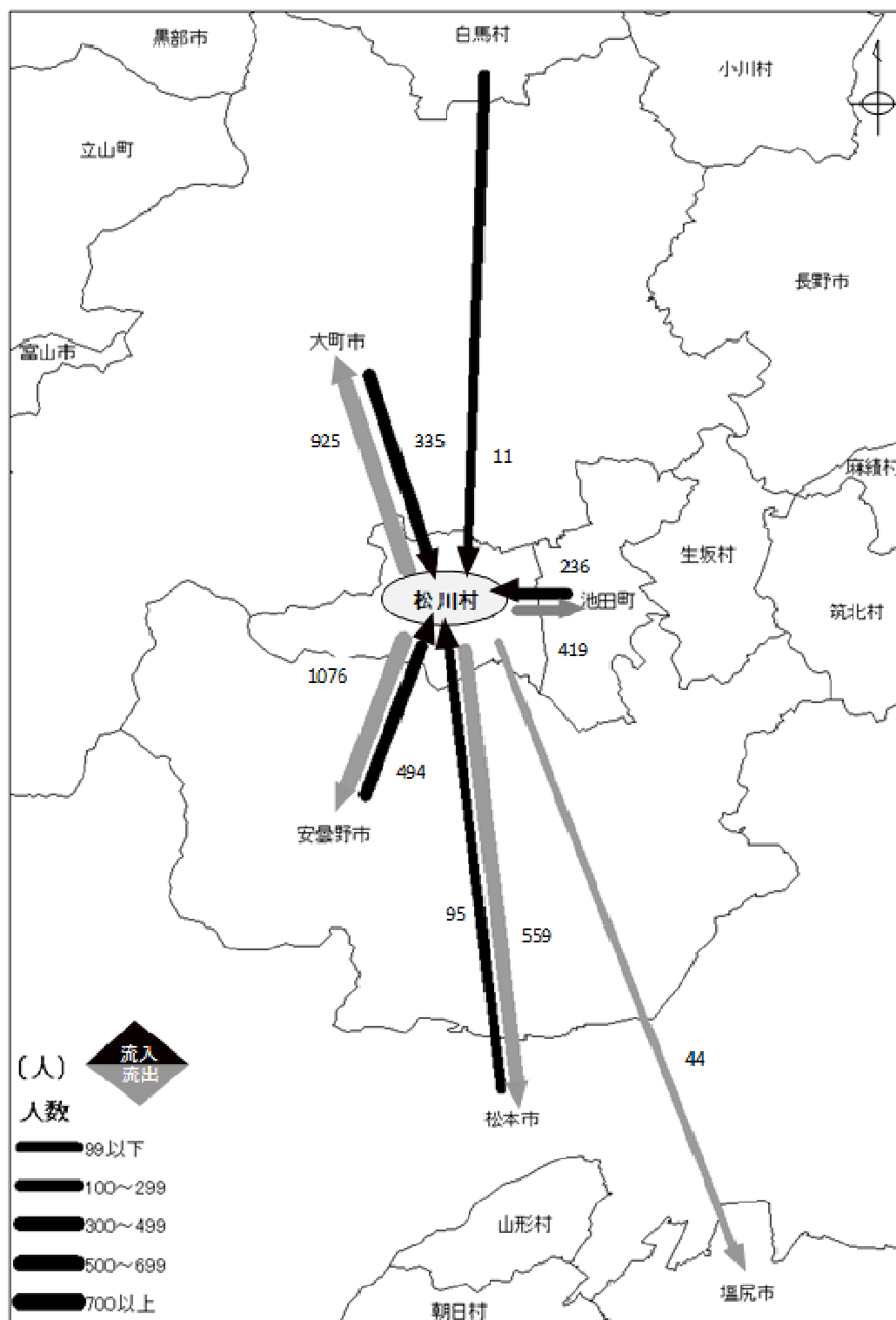
2. 流出率 = 流出就業者数 ÷ 常住地による就業者数 × 100

流入率 = 流入就業者数 ÷ 従業地による就業者数 × 100

3. (従 / 常) 就業者比率 = 従業地による就業者数 ÷ 常住地による就業者数 × 100

図表 1-13 流出・流入状況図（就業者）

令和2年



図表 1-14 流出・流入別人口（通学者）

（平成 12, 17, 22, 27, 令和 2 年国勢調査 常住地・従業地における就業者・通学者数）

	常住地による 通学者数	流 出		従業地による 通学者数	流 入		従 / 常 通学者比率
		通学者数	流出率		通学者数	流入率	
平成 12 年	人 411	人 346	% 84.2	人 67	人 1	% 1.5	% 16.3
平成 17 年	440	371	84.3	71	2	2.8	16.1
平成 22 年	475	425	89.5	58	5	8.6	12.2
平成 27 年	455	374	82.2	86	4	4.7	18.9
令和 2 年	436	375	86.0	68	3	4.4	15.6

	流 出 先														
	流出率第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
平成 12 年	松本市	人 119	% 29.0	大町市	人 79	% 19.2	豊科町	人 58	% 14.1	穂高町	人 37	% 9.0	池田町	人 25	% 6.1
平成 17 年	松本市	141	32.0	安曇野市	85	19.3	大町市	76	17.3	池田町	37	8.4	白馬村	7	1.6
平成 22 年	松本市	149	31.4	安曇野市	90	18.9	大町市	79	16.6	池田町	58	12.2	白馬村	8	1.7
平成 27 年	松本市	133	29.2	大町市	69	15.2	安曇野市	67	14.7	池田町	36	7.9	長野市	10	2.2
令和 2 年	松本市	146	33.5	大町市	86	19.7	安曇野市	71	16.3	池田町	36	8.3	塩尻市	8	1.8

	流 入 先														
	流入率第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
平成 12 年	大町市	人 1	% 1.5		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 17 年	松本市	1	1.4	大町市	1	1.4									
平成 22 年	松本市	2	3.4	大町市	2	3.4	安曇野市	1	1.7						
平成 27 年	安曇野市	2	2.3	大町市	1	1.2	松本市	1	1.2						
令和 2 年	安曇野市	2	2.9	大町市	1	1.5									

- 注 1. 常住地による通学者数とは、当該都市に常住する（夜間人口ベース）通学者数を言う。
 従業地による通学者数とは、当該都市に従業する（昼間人口ベース）通学者数を言う。
2. 流出率 = 流出通学者数 ÷ 常住地による通学者数 × 100
 流入率 = 流入通学者数 ÷ 従業地による通学者数 × 100
3. （従 / 常）通学者比率 = 従業地による通学者数 ÷ 常住地による通学者数 × 100

図表 1-15 流出・流入状況図（通学者）

令和2年

